

今週（2月25日から2月28日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週間の当座預金残高は400兆円前後で推移した。無担保コールO/N物の加重平均レートは概ね▲0.01%前半で推移したが、週末かつ月末にあたる28日は取り手の減少と出し手の資金増加により、▲0.025%まで低下した。業態別では週を通して地銀業態で▲0.015～▲0.005%、信託業態で▲0.025～▲0.020%、証券業態で▲0.020～▲0.010%程度のビッドが見られた。ターム物は引き続きオファーが出難く、0%程度で散発的な出会いが見られた程度。四半期超えとなる1M程度では様子見の出し手が多く、出会いは殆ど見られていない。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは28日に2W物・15,000億円が新規にオファーされ、3,070億円と札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、投資家の資金調達ニーズが週半ばからみられたことで、レート水準は週後半にかけて上昇していった。週初25日T/Nは▲0.10～▲0.08%の出会い、翌26日T/Nは投資家のオファーが入ったことで若干レートが上昇し、▲0.09～▲0.07%の出会い。その後もレートを上げる展開が続き、27日T/N（2/28～3/2）は三日積みとなったことで▲0.08～▲0.06%、28日は短国の入札発行要因から更に上昇し、▲0.07～▲0.05%の出会いとなった。

SCについては5y 137～141、10y 336～341、352～357、20y 169～171にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給に改善が見られる中、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて債券相場全体が堅調に推移したことなどもあり、しっかりとした推移となった。3M物では▲0.150～▲0.140%、6M物では▲0.179～▲0.170%、1Y物では▲0.200%近辺でのまとまった出会いが見られた。

26日に実施された短国買入オペは、前回比プラス2,500億円の7,500億円でオファーされた。平均落札利回較差▲0.001%、按分落札利回較差▲0.007%と、しっかりした結果となった。

28日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.138～▲0.134%で出合う中、平均落札利回▲0.1391%、按分落札利回▲0.1343%となった。3,000億円増発されたものの、債券相場全体が堅調であったことから、しっかりとした結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、月末・月初の発行が重なったことで、償還総額1兆2,000億円強に対し、発行総額が1兆8,300億円程度に膨らむ発行超のマーケットとなった。月末発行を中心に、電機・電力・ノンバンク等幅広い業態が大口の発行を実施した。市場残高は週を通して23兆円弱の水準で推移しており、着実に増加している。発行レートは、高水準の市場残高を背景に荷もたれ感が強いことに加え、キャッシュ潰しニーズも減退傾向にあることから、総じて上昇傾向が見られている。期内物に関しては高格付の銘柄でもプラス圏で決着する案件が多くなっており、年度末越えの希少銘柄であっても0%近辺から若干のマイナス圏での決着が中心となっている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
2/24（月）						
2/25（火）	22,605.41	△ 0.105	110.92	△ 0.012	△ 0.080	3,998,400
2/26（水）	22,426.19	△ 0.095	110.31	△ 0.014	△ 0.081	3,999,300
2/27（木）	21,948.23	△ 0.110	110.31	△ 0.014	△ 0.085	3,999,500
2/28（金）	21,142.96	△ 0.160	109.40	△ 0.025	△ 0.065	4,018,400

来週（3月2日から3月6日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/2（月）	10-12月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)				1月の米建設支出 2月のISM 製造業景況指数
3/3（火）	2月のマネタリーベース(日銀 8:50) 2月の消費動向調査(内閣府 14:00) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	10Y 21,000億円 3/4発行			2月のユーロ圏消費者物価指数速報値
3/4（水）	3月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	交付税借入 11,650億円 3/13借入			米ページブック 2月のISM 非製造業景況指数
3/5（木）		30Y 7,000億円 3/6発行			1月の米製造業新規受注・出荷・在庫
3/6（金）	2月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 1月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 1月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 47,400億円 3/9発行			1月の米貿易収支 1月の米卸売売上高 2月の米雇用統計 1月の米消費者信用残高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/2（月）	400	▲ 37,700	▲ 37,300	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 200 200	3,100 200	3,300	▲ 34,000	財政融資資金の回収 TB3M発行▲47000償還43100 2Y発行▲22000
3/3（火）	0	▲ 12,000	▲ 12,000				0	▲ 12,000	税・保険料揚げの前倒し
3/4（水）	0	▲ 66,000	▲ 66,000	貸出支援	▲ 6,300	2,200	▲ 4,100	▲ 70,100	年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 10Y発行▲21000 交付税借入▲10500期日10500
3/5（木）	0	6,000	6,000				0	6,000	
3/6（金）	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000	貸出支援	▲ 100		▲ 100	▲ 2,100	30Y発行▲7000 交付税借入▲10500期日10500
週 間 合 計	▲ 600	▲ 110,700	▲ 111,300	—	▲ 6,400	5,500	▲ 900	▲ 112,200	

3/2は日銀予想、3/3以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期後半に入中、資金不足日が多いことから、引続き堅調な地合いが予想される。レポ市場は、国債の発行や税揚げなどの資金不足要因が多いことから、GC T/Nは引き続き横ばい圏で高めの推移が続くと考えられる。短国市場は、6日に3M物の入札が実施予定となっている。国債相場の強含み、短国買入オペのオフアー額など、市場動向が注目される。CP市場は、新型コロナウィルスへの対応策をとる企業も増えている中で、年度末越えの発行がどこまで膨らむのか注目されるほか、4日にCP等買入オペが予定されており、動向が注視される。

主要なイベントとしては、海外では3日に2月のユーロ圏CPI、6日に2月の米雇用統計が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入